



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

“未来の関西医大生”が多数来場

医学部オープンキャンパスを開催



枚方学舎には、2日間で延べ592名が来場
写真は本学の未来について講演する山下敏夫理事長・学長

CONTENTS

法人： 附属滝井病院リニューアル工事の今	P.4	卒後臨床研修センター： 後期研修医の申込みを受け付けています	P.21
大学： 海外国家機関から感謝状	P.10	同窓会： カヌー部は、創立50周年を迎えました	P.22
病院： 附属枚方病院に海上保安庁のヘリが飛来	P.15	お知らせ： 医学会総会への参加登録はお済みですか？	裏表紙
附属看護専門学校： 牧野の地で、初の学校祭を開催	P.20		

巻頭記事

新たなプログラムも大盛況 多数の志望者・保護者が来場しました



7月20日(日)と8月2日(土)、いずれも午前11時30分から枚方学舎及び附属枚方病院において平成26年度医学部オープンキャンパスが開催されました。枚方学舎に移転して2度目の開催となった今回は、昨年に引き続き学生が案内役を務めるキャンパス見学会、シミュレータやBLS(一次救命処置)の体験会、臨床検査医学講座高橋伯夫教授による模擬講義、受験・学生生活相談会、オープンラウンジでの茶会、附属枚方病院見学会などのイベントを実施。さらに今年からの新たな試みとして現役学生が受験・学生生活、国家試験勉強などについて本音で語る『在学生トークイベント』や、学生食堂のメニューを味わえる『無料学食体験』も開催しました。

最終的に2日間で延べ592名が来学。たくさんの本学志望者が、自分の未来に思いを馳せるひとときとなりました。

学生が本音で語る在学生トークイベント



本学で学ぶ学生が大学受験から学生生活、医師国家試験への勉強など、自身の体験を踏まえて本音で語る新企画『在学生トークイベント』。参加者は興味津々といった面持ちで耳を傾けていました。

美味しい料理に舌鼓を打つ無料学食体験



普段在学生が食べている学生食堂のメニューを参加者にも味わってもらおうという新たな試み『無料学食体験』。また、食堂内には大学紹介ビデオを上映するコーナーが設けられ、足を止める参加者の姿も。

大人気の内視鏡シミュレータ



内視鏡を挿入しての診断や治療を練習できる、シミュレータ体験コーナーを用意。たくさんの志望者が列を作り、保護者の見守る中次々と内視鏡の疑似体験を行いました。

大学病院の裏側に迫る、病院見学会



事前申込みの先着順で、附属枚方病院の見学会を実施しました。普段目にする事の少ない大学病院の裏側に足を踏み入れた参加者は、行く先々で感嘆の声をあげていました。

BLS(一次救命処置)体験



救急医学講座の教員から、胸骨圧迫やAEDを用いたBLS(一次救命処置)を学ぶBLS体験を開催。中には胸骨圧迫の意外な運動量に疲れ、肩で息をすする参加者の姿も見られました。

歩き疲れた体に、一服どうぞ

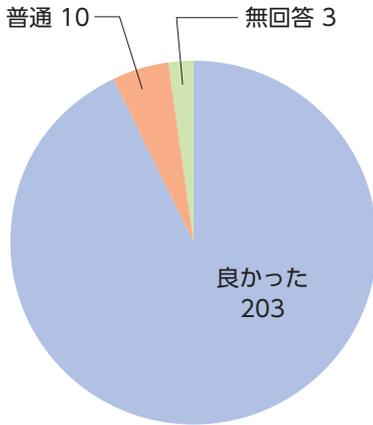


枚方学舎1階オープンラウンジでは、茶道部がお茶会を開催。無料での接待は学舎を歩き疲れた来場者に好評で、淹れたての抹茶にほっと一息つきながら来場者同士お喋りに花が咲いていました。

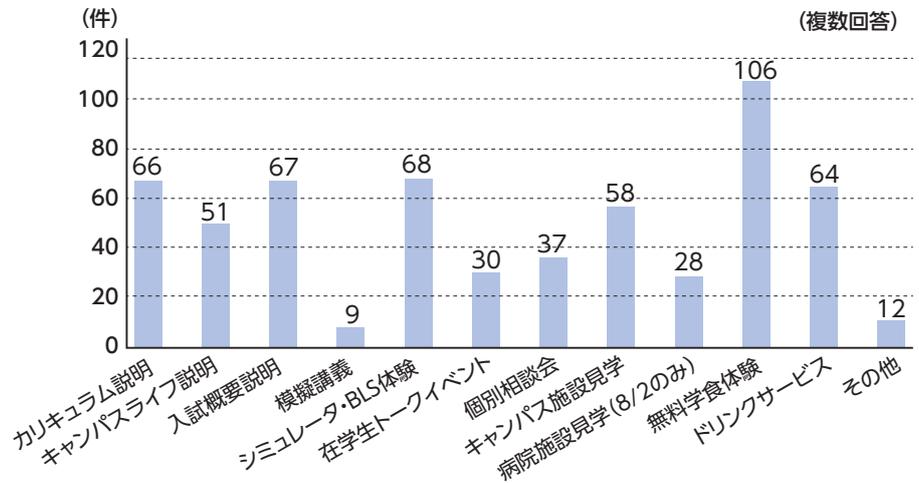
巻頭記事

来場者アンケート 総回答数：216

本学のオープンキャンパスに参加してよかったですか。



本学のオープンキャンパスでよかったのはどれですか。



アンケートで寄せられた参加者の声

- ・人の命を助けるという事がどれほどやりがいのある仕事なのか実感できました。
- ・関西医大のような“心ある環境”で学べるよう、目標への意識付けができました。
- ・周りの環境もとても良く、入学したいと思う気持ちが強くなりました。
- ・人の命を助けるのは、やはりやりがいのある仕事だと思いました。
- ・丁寧に説明して頂き、さらに医学部への志望が強くなりました。
- ・AEDや胸骨圧迫を練習できてよかったです。人を助けたいと思いました。
- ・説明がとてもわかりやすく、入学への意欲が増しました。
- ・良医として必要なことを確実に身に付けるカリキュラムで安心しました。
- ・これまで以上に、もっと勉強を頑張ろうと思いました。
- ・入学すれば、たくさんの方が学べると感じました。
- ・どれをどれだけ勉強すればいいかすごく分かり、不安が解消できました。
- ・複数人の在学生に相談してもらえたので多面的に理解できました。
- ・施設内でどのような実習、診療が行われているかが見れて良かったです。
- ・素敵な大学だなと思ったので入学できるよう頑張ります。
- ・きれいな施設、おもてなしで、受験への意欲が湧いたようです。
- ・とても勉強へのモチベーションが上がりました。良かったです！！
- ・勉強をもっと頑張って絶対にここに入りたいです。

平成27年度入試から、インターネット出願を導入します

平成27年度医学部入学試験からインターネット出願を導入します。利用できるのは推薦入試を除くセンター試験利用入試、一般入試（前期）・一般入試（後期）の出願です。これにより、募集要項・願書を取り寄せることなく応募でき、24時間いつでも出願登録が

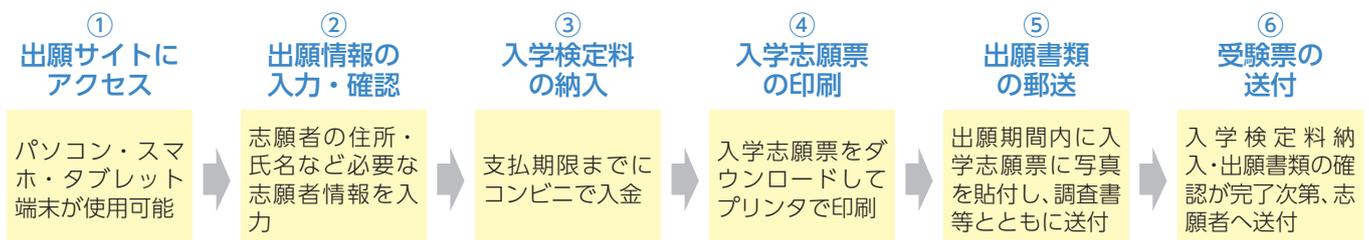
可能です。また、出願サイトでは入力内容を自動的にチェックしますので、記入ミスを防ぎます。

■入試相談会予定

11月19日(水) 午後5時～

「大学入試説明会」 駿台予備学校上本町校

インターネット出願の流れ



法人

旧専門部学舎は跡形もなくなり、地盤改良工事が始まりました

滝井リニューアルNOW

今年初めからスタートした建屋解体工事も一段落。今や旧専門部学舎は影も形もありません。現在は地盤改良工事が進行中で、新本館の基礎杭打ち込み、及び地下施設のための掘削工事が進行中です。



9月1日時点でのリニューアル工事現場写真



6月16日時点のリニューアル工事現場写真



8月21日時点のリニューアル工事現場写真



現在、附属滝井病院本館エントランスホール横に新本館の完成予想模型が展示しており、将来の姿を想像することができます。

円滑な連携の必要性を再確認 平成26年度SDプログラム開催



大学事務部としてなすべきことについて講演を聞く参加者

8月29日(金)午後2時から枚方学舎4階中会議室において、平成26年度SD (Staff Development) プログラムが、伊藤誠二副学長をはじめ、19人の教職員が参加し開催されました。今回は大学事務部を中心とした本学の職員が、大学を取り巻く政策等を理解し、大学職員としての知識を向上させること及びプレゼンテーション能力の向上を目的に、講演と質疑応答を含めた総合討論が行われました。

まず、本学教員のFD (Faculty Development) の歴史や教員と職員との関わりについて伊藤副学長から、本学を巡る外部環境と本会を開催することについて高井俊大学事務部部長から、中教審答申等大学教育を巡る環境について生島正也教育研究基盤整備企画室係長から、本学の教学事項の現状や改善点などを踏まえて、大学事務部の職員としてやるべきことについて出口育代大学事務部学務課課長からそれぞれ講演がありました。

その後の質疑応答を含めた総合討論では、部署間や教職員間でよりよく連携を深めていくにはどうすればいいかなど、今回の議論も踏まえて日頃問題意識を持っている事柄について、活発な議論が交わされました。

「施設設備整備拡充資金」の募集

関西医科大学では平成26年度の寄付金として「施設設備整備拡充資金」を募集しております。これは医学・医療技術の進歩に対応して教育・研究・診療の施設設備の整備・拡充を進めるためのものです。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

募集要項

- | | |
|------------|---|
| 1. 募集対象 | 本学学生の保護者、同窓会員、
本学関連の個人および法人その他 |
| 2. 募集金額 | 1口100万円 1口未満でも申し受けます。 |
| 3. お問い合わせ先 | 関西医科大学法人事務局募金室
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
TEL：072-804-2146（直通）
FAX：072-804-2344 |

平成26年7月1日から平成26年9月30日までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。



“次の関西医大”を担って欲しい 『内定者集合会』を実施



懇親会で友好を深める内定者と先輩職員

9月8日(月)午後3時から、枚方学舎4階中会議室において平成27年度採用予定者12名が参加して『事務員内定者集合会』が開催されました。冒頭、熊見豊明法人事務局施設部部長から附属滝井病院リニューアル事業計画に関する説明があり、続いて川村元伸附属枚方病院事務部部長からは附属枚方病院の概要が説明されました。その後は内定者に附属枚方病院を案内。特別病棟や一般病棟、屋上庭園、正面玄関、管理事務室を見学しました。枚方学舎に戻ってからは図書館や歴史資料室、学生食堂、シミュレーションセンターなどを見学しました。

最後は4階カフェテリアで懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中、内定者同士や先輩職員との会話に花が咲きました。参加した内定者は「施設見学や懇親会に参加して、将来自分がここで働くイメージが持てた」と話し、貴重な経験になった様子でした。

自宅でも外出先でもどこからでも 枚方学舎の中を見学可能に



タブレット、スマートフォンから閲覧することも可能です

9月1日(月)からGoogle社の提供するWebサービス「Googleインドアビュー」を、国内の医学部・私立医科大学、および大阪府内の私立大学で初めて導入しました。「Googleインドアビュー」とは「Googleマップ」に搭載された追加機能「ストリートビュー」の発展版で、閲覧者は無料で建物の外観だけでなく内部の様子まで見学することができます。これによりパソコンやスマートフォンなどからインターネット回線を通じて誰でも、いつでも、どこでも枚方学舎の内部を見学できるようになりました。なお、今回の導入は試験的なものであり、今後利用状況を踏まえて導入範囲の拡充も検討します。

閲覧は…

法人

リーダー育成を目指して 新任管理職・係長研修



白熱するグループ討議

本年度昇進者を対象に、リーダー育成を目的として「新任管理職研修」(8月7日(木)～8日(金))、「新任係長研修」(9月11日(木)～12日(金))が開催されました。

新任管理職研修では組織運営におけるマネジメントの基礎を学び、新任係長研修では財務基礎をはじめ、人材育成・課題発見と解決方法について学びました。各研修とも2日間の日程で実施され、参加者は講義と実習で構成されたカリキュラムに真剣に取り組む、多くの気づきや知識を職場に持ち帰りました。また、部署や職種を越えて活発な情報交流が行われ、人的交流にも繋がった研修会となりました。終了後、参加者は今後の業務に生かしたいと、気持ちを新たにしていました。

<参加者の声>

「目標やなすべきことが明確になった」

「管理職としての使命が理解できました。手探りでやっている事も間違っていないと思えた研修でした」

「明日から自分を変えようと思います」

「病院・部門を越えて一緒に研修する事で、他職種の方の考えや思いも聞くことができ刺激になりました」

事務職新入職者による座談会開催



神崎理事を囲み、昼食を共にする参加者

9月20日(土)午前12時から、枚方学舎4階中会議室において平成26年度事務職新入職者による座談会が開催されました。当初は緊張の見える事務職新入職者の参加者10名も次第に打ち解け、神崎秀陽理事と昼食を取りながら、一人ひとりから近況や今抱えている問題点や疑問点を発表するなど、活発な意見交換を行いました。

大学基準協会認証評価受審に係る実地調査について

10月6日(月)・7日(火)の2日間に亘り、学校教育法に定める7年毎の認証評価に関して、枚方学舎において公益財団法人大学基準協会による書面評価に続く実地調査が実施されました。

今回の調査は、主査及び委員の4名によって「大学関係者との意見交換」「教職員・学生のヒアリング」「施設見学・授業参観」が行われ、2日目の午後に行われた山下敏夫理事長・学長はじめ本学要職者との意見交換では、大学評価基準の10項目について講評がありました。

今後、同協会において本学に対する「大学評価結果(委員会)案」が策定され、今年12月下旬に本学へ送付があり、最終的には来年3月に「大学評価結果」が通知される予定です。

主な出来事

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します。(記事掲載は太字)

法人	8月29日	平成26年度SDプログラム	
	9月8日	内定者集会	
大学	7月2日	本学の教育に関する学生との懇談会	
	7月3日	「国外臨床実習の成果」報告会	
	7月12日	第32回医学教育ワークショップ	
	7月20日・ 8月2日	医学部オープンキャンパス	
	8月2日	国民との科学・技術対話パネル展示	
	8月20日・ 21日	研究医養成コースコンソーシアム合宿	
	8月22日	平成26年度クリニカル・クラークシップ中間検討会	
	9月9日	平成25年度学生からの教育評価に基づく教員・科目等の表彰式	
	9月9日	学長賞授与式	
	9月12日	科研費公募要領等説明会	
病院	9月17日	ソロモン諸島感謝状授与式	
	9月22日	平成26年度9月学位記授与式	
	9月26日	再生医療コンソーシアム研究会	
	9月30日	近畿中部地区医系大学知的財産管理ネットワーク 新技術説明会	
	9月18日	第7回合同クリニカルパス大会	
	7月9日	ボランティア交流会	
	7月19日	Summerコンサート	
	7月25日	災害医療研修会	
	8月27日	子ども病棟祭	
	8月30日	広域医療搬送訓練に伴う模擬傷病者受け入れ	
附属 枚方病院	8月30日	緩和ケア研修会	
	9月2日	医療安全管理部・感染制御部合同 医療安全講習会開催	
	9月9日	救急医療功労者表彰	
	9月9日	附属枚方病院看護師 人命救助感謝状授与	
	9月20日	市民公開講座	
	7月5日	地域医療連携フォーラム	
	7月18日	第1回健康まちライブラリー	
	8月3日	歯科口腔外科開設	
	9月28日	Take! ABI 2014 in KANSAI	
	9月27日	河北医師会との懇談会	
香里病院	7月5日	七夕コンサート	
	7月8日	かほり文庫設置	
附属看護 専門学校	7月25日・ 29日	附属看護専門学校オープンキャンパス	
	8月5日		
	9月20日	第35回関西医科大学附属看護専門学校祭	
卒後 臨床研修 センター	7月6日	レジナビフェア2014 in 大阪	

医学教育ワークショップ

医学部オープンキャンパス

広域医療搬送訓練

ソロモン諸島政府感謝状贈呈

附属看護専門学校学校祭

大 学

再生医療コンソーシアム研究会を開催

9月26日(金)午後5時から、枚方学舎4階中会議室において薬理学講座中邨智之教授をリーダー、形成外科学講座楠本健司教授をサブリーダーとする再生医療コンソーシアム研究会が開催されました。この研究会は再生医療をテーマとして3ヶ月に1回のペースで開催しており、今回は胸部心臓血管外科学講座岡田隆之講師が「心拍動下 onlay grafting の遠隔期冠動脈remodeling効果 -心臓血管外科領域の再生医療-」を、脳神経外科学講座埜中正博診療教授が「臍帯血幹細胞移植による脊髄髄膜瘤の新規治療法開発」を、それぞれ発表しました。また、この日は基礎社会系講座・臨床系講座から27名が参加。発表中は真剣な表情で耳を傾け、質疑応答においても活発な議論が取り交わされたことで、基礎社会系講座と臨床系講座との交流がより深まりました。

なお、次回は12月17日(水)午後5時から、研究医長会議が主催する臨床系研究室セミナーとの合同開催を予定しています。

交流からモチベーションを得た 研究医養成コースコンソーシアム合宿



各大学から参加した学生・教職員で記念撮影

8月20日(水)21日(木)、神戸ポートピアホテルにおいて本学及び奈良県立医科大学、大阪医科大学、兵庫医科大学の4大学で組織する「研究医養成コンソーシアム」の「研究医養成コースコンソーシアム合宿」が、加盟4大学から学生23名・教職員18名が参加して開催されました。この合宿は、各大学で研究医養成コースに参加する学生が志を同じくする他大学の学生や教職員と交流し、優れた研究医となるためのより一層の成長と動機形成を促すために、昨年度から新たに始まった試みです。

合宿初日は本学の友田幸一副学長の挨拶と参加者の自己紹介を経て本学、奈良県立医大及び大阪医大の学生が発表を行い、質疑応答では活発な議論が生まれました。また、夕食時には互いに研究内容や学生生活に

ついて情報を交換。腎泌尿器外科学講座吉田健志助教や若手研究者の講演を挟んで開催されたフリースタイルも大いに盛り上がりしました。

翌日は形成外科学講座覚道奈津子助教に加え法医学講座橋谷田真樹講師の講演があり、特に女子学生が熱心に耳を傾けていました。最後に本学の伊藤誠二副学長が合宿を総括するとともに閉会の挨拶を述べ、全プログラムが終了。学生たちの表情には満足感が漂い、大きなモチベーションを得た様子でした。本合宿は、今回の成功に満足することなく“研究医養成プログラム”として更なる発展を目指しています。

モチベーションの維持がカギ 平成26年度クリニカル・クラークシップ中間検討会を開催



質疑応答で学生と議論を交わす友田教務部長

8月22日(金)午後5時から枚方学舎加多乃講堂において「平成26年度クリニカル・クラークシップ中間検討会」が開催され、友田幸一教務部長、木下洋医学教育センター長、野村昌作教務委員会臨床実習小委員会委員長、櫻井知賀附属枚方病院看護部副部長、各講座の教育医長をはじめとする教職員並びに5学年学生合わせて134名が参加して開催されました。本会は、5学年の2学期開始前に4月から3か月間の臨床実習を行ってきた中での問題点や改善点を、教員と学生が直接意見交換する場として毎年開催されています。

今年の検討会では今年度から新たに導入した他職種から評価を受ける360度評価の一環として、看護師による評価を試行導入したことに伴い、櫻井副部長から学生との関わり方やCLINICAL CLERKSHIP RECORDSの冊子を用いた評価方法について、看護部で取りまとめたアンケートの結果が紹介されました。その他、木下センター長から「前期クリニカル・クラークシップの全体評価」、東京医科歯科大学作成の参加型臨床実習についてのムービー上映が行われました。また、討論の中では各教育医長から学生のモチベーション低下に関する危惧、学生からは忙しい看護師に評価をしてもらうことの難しさなどが述べられました。

大 学

絶えまない進化を目指して 「第32回医学教育ワークショップ」



出席者全員が、「良医育成」を目指して議論を深めました

7月12日(土)午前9時から、枚方学舎2階第4講義室他で「第32回医学教育ワークショップ」が開催されました。このワークショップには、松田公志副学長(ディレクター)、友田幸一教務部長(ディレクター)、木下洋医学教育センター長(サブディレクター)、藤澤順一教務副部長、野村昌作教務委員会臨床実習小委員会委員長、中邨智之教務委員、谷川昇教務委員らタスクフォースメンバーに加え、教職員・学生合わせて62名が参加。午前は昨年に改定された6年一貫教育カリキュラムの更なる進化を目指し、現状の振り返りと課題について友田教務部長他が講演しました。

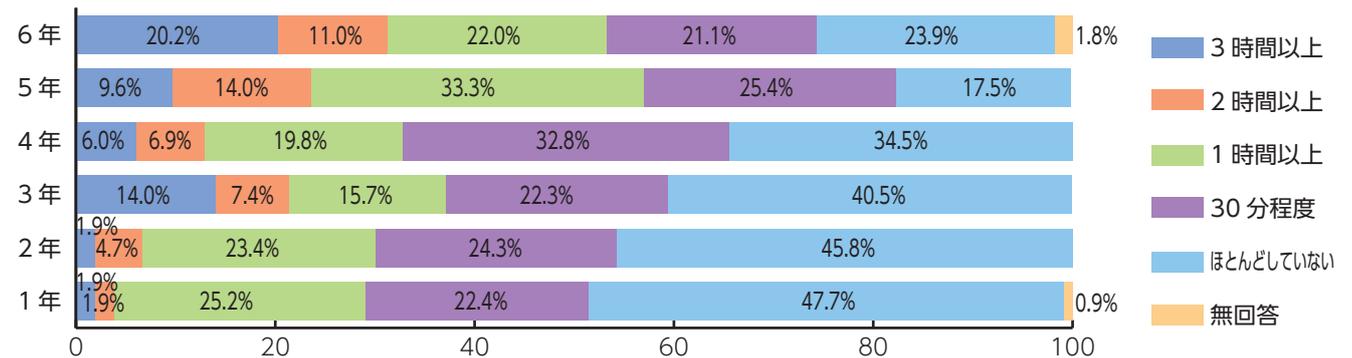
その後は4グループに参加者が分かれ、「準備教育の問題点と基礎医学への連続性」「配属実習」「総合人間医学4」「臨床実習CCRの活用」をテーマに、具体的な検討を開始。“人間性豊かな良医の育成”を目指して議論を深めました。午後にも議論を重ね、最後は4グループが各テーマにおける改善点についてそれぞれの討議結果を発表し、友田副学長・教務部長による閉会の挨拶でワークショップは幕を閉じました。

学修環境のICT化を推進し、自宅学修時間の拡大を狙う

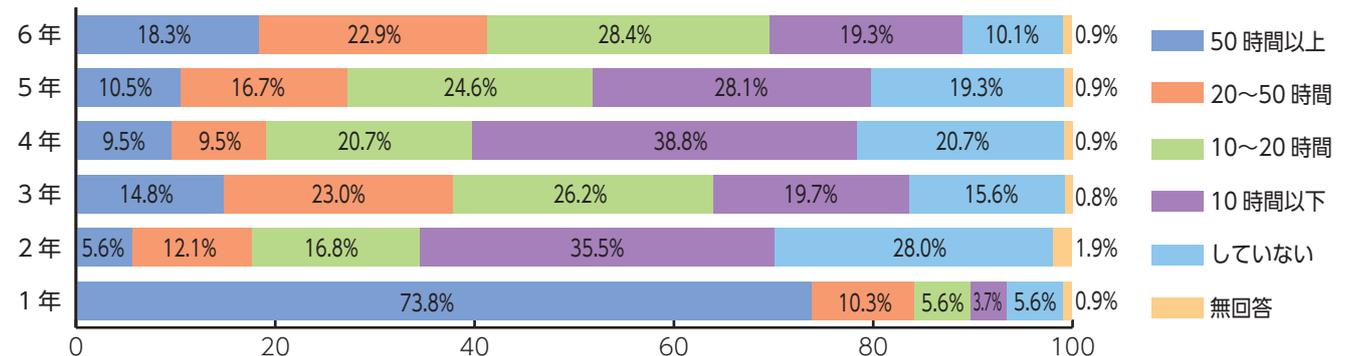
本学では、学生を対象とした「学生の学修時間・学修行動実態調査」を初めて実施しました。この調査は、医師に求められる資質・能力の多様化が進む中で学生が自らの人生を切り拓くためには、大学教育において主体的な学修行動の誘発が必要である、との考え方にに基づき行ったものです。これまで教員が感覚的にしか把握できていなかった学生の予習・復習時間や場所、自宅学修量など、学修行動の実態について客観的なデータが集まりました。

その結果低学年ほど自主的な学修時間が短いことや、1学年は入試の、2～5学年については夏季休業中の自宅学習時間が比較的短いことが判明。これを受け、本学はICT化の促進によって各種参考資料の閲覧など学外における情報アクセスインフラを整備し、学生の自宅学修を促す施策を検討していく予定です。

■アンケート結果 復習時間

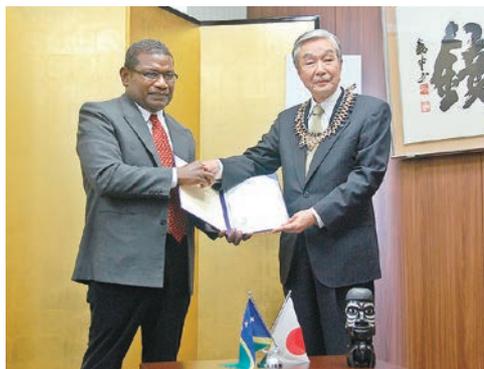


■アンケート結果 昨年度夏季休暇中の学修時間合計



大 学

海外国家機関から感謝状 ソロモン諸島政府から贈呈される



Darcy氏からソロモン諸島政府の感謝状と記念品を贈られる山下理事長・学長

9月17日(水)午前11時から、『日本・ソロモン友好協会』の井上一成会長(元衆議院議員)・高濱清理事長(元在ソロモン臨時代理大使)が来学し、枚方学舎13階法人応接室においてソロモン諸島政府からの感謝状贈呈式が行われました。式典は友田幸一国際交流センター長司会のもと、公衆衛生学講座西山利正教授も見守る中、ソロモン諸島出身の留学生 Andrew Waleluma Darcy氏から感謝状が山下敏夫理事長・学長に贈呈。山下理事長・学長から感謝の言葉がDarcy氏に伝えられました。

ソロモン諸島政府はDarcy氏の研究成果について政策化を検討するなど、本学の医学教育・研究実績を高く評価しています。また、昨年に発生したソロモン諸島沖地震の復興支援のために教職員から多くの支援物資が寄付されたことから、本学にとって初の海外国家機関からの感謝状贈呈となりました。

「平成25年度学生からの教育評価に基づく教員・科目等の表彰式」



山下理事長・学長から表彰状を手渡される受賞者

9月9日(火)午後3時45分から、枚方学舎4階中会議室において山下敏夫理事長・学長はじめ多くの教授列席のもと、学生から高く評価された教員・科目を表彰する「平成25年度学生からの教育評価に基づく教員・科目等の表彰式」が行われました。表彰は「基礎科目(科目部門)」「基礎科目(教員部門)」「チュートリアルコース部門」「臨床実習科目部門」に分かれており、各部門ごとに表彰状が山下理事長・学長から贈られました。

なお、今年度の受賞者は下記の通りです。

【基礎科目(科目部門)】

- | | |
|--------------|-------|
| 第1位：医学英語 I C | 中川淳教授 |
| 第2位：医学英語 I A | 中川淳教授 |
| 第3位：数学 | 前田茂教授 |
| 第3位：生物有機化学 | 藤井茂教授 |

【基礎科目(教員部門)】

- | | |
|--------------|---------|
| 第1位：衛生学 | 佐々木豊准教授 |
| 第2位：衛生学 | 藤岡龍哉講師 |
| 第3位：薬理学 | 大谷ひとみ講師 |
| 第3位：薬理学 | 北川香織助教 |
| 第5位：薬理学 | 赤間智也准教授 |
| 第5位：医療情報学 II | 渡邊淳准教授 |

【チュートリアルコース部門】

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 第1位：小児の成長・発達コース | 金子一成教授
(小児科学講座) |
| 第2位：周産期・生殖器コース | 神崎秀陽教授
(産科学・婦人科学講座) |
| 第2位：精神・行動コース | 木下利彦教授
(精神神経科学講座) |

【臨床実習科目部門】

- | | |
|-----------------------|--------|
| 第1位：小児科学 | 金子一成教授 |
| 第2位：整形外科学・リハビリテーション医学 | 飯田寛和教授 |
| 第3位：内科学第三 | 岡崎和一教授 |

文武両道の体現者を表彰「学長賞授与式」



山下理事長・学長を囲み、受賞者・列席者一同で記念写真

9月9日(火)午前12時から、枚方学舎4階中会議室において平成25年度に目覚ましい活躍を遂げた学生を表彰する『学長賞 授与式』が行われました。式には山下敏夫理事長・学長をはじめ伊藤誠二副学長、楠本健司学生部長、法医学講座赤根敦教授、健康科学教室木村穰教授、解剖学第二講座杉本哲夫教授が列席。受賞者一人ひとりに、山下理事長・学長から表彰状が手渡されました。

なお、今年度の受賞者は下記の通りです(学年は昨年度のもの)。

- ・4学年 安達賢太郎(剣道部)、小野未侑(陸上競技部)
- ・5学年 中山健太郎(バドミントン部)、佐藤結衣子(陸上競技部)
- ・6学年 宮原拓真(空手道部)
- ・団体 陸上部

大 学

互いに本音をぶつけあう 「本学の教育に関する学生との懇談会」



学生に語りかける山下理事長・学長

7月2日(水)午後6時から、枚方学舎4階中会議室において「本学の教育に関する学生との懇談会」が開催されました。これは本学の教育理念である“人間性豊かな良医を育成する”ために、山下敏夫理事長・学長をはじめ、副学長、教学関係の教員並びに附属3病院長に学生が、食事を共にしながら日頃の思いを伝え、また先生たちと語り合うという全国の医学部を見ても非常に珍しい取り組みです。その歴史は長く、本学の自由・自律・自学の学風が象徴的に具現化された取り組みです。

今年は、学生側から再試験制度や出欠管理に関する要望、学内設備の改善についての意見が出され、それに対して各教授や山下理事長・学長も本音で答える中で議論が盛り上がりました。最後には、学生たちから口々に大学運営・教育・指導に対する感謝の言葉が飛び出し、和やかな雰囲気の中、懇談会は幕を閉じました。

How about studying abroad ? 「国外臨床実習の成果」報告会



英語でのプレゼンテーションに熱がこもる発表者(右下)と、耳を傾ける参加者

7月3日(木)午後5時30分から、枚方学舎加多乃講堂において『「国外臨床実習の成果」報告会』が開催されました。友田幸一教務部長の開会挨拶で始まった報告会では、今年アメリカやカナダ、ドイツ、マレーシアでの国外臨床実習を経験した6学年11名がそれぞれの成果を全て英語で、1学年116名を含むおよそ150名の聴衆に報告。現地での生活や一日のスケジュール、実際の実習で学んだことなどの話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

質疑応答のコーナーでは、今後国外臨床実習への参加を希望する学生が実習地を選んだ理由について質問したり、実際に暮らしてみないと分からない体感治安や生活費についての質問が出たりと、活発に意見を交換しました。その後、平成27年度国外臨床実習の募集要項についての説明を経て、野村昌作教務委員会臨床実習小委員会委員長の閉会挨拶で締めくくられました。

12名の新たな博士が誕生 平成26年度9月学位記授与式を挙



学位記を手に、列席者一同と記念撮影に収まる学位取得者

9月22日(月)午後2時から、枚方学舎4階中会議室において山下敏夫理事長・学長はじめ伊藤誠二副学長、中邨智之大学院教務部長ら列席のもと『平成26年度9月学位記授与式』が執り行われ、12名に「博士(医学)」の学位が授与されました。式では厳かな雰囲気の中、学位記が一人ひとりに手渡され、山下理事長・学長から「日本の医学研究力の低下が叫ばれている昨今、これまでみなさんが磨かれた客観的観察力と論理的思考力、努力すれば夢が叶うと信じる力、そして指導して下さった方々への感謝の心を忘れず、サイエンスとアートの融合とEBM (Evidence-Based Medicine) の実践に向けて頑張ってください」との言葉が贈られました。

大 学

内閣府方針による科学・技術発展のための国民との科学・技術対話 研究活動紹介のパネル展示会を開催



展示パネルの前で足を止め、内容に見入る参加者

8月2日(土)午後1時20分から枚方学舎1階オープンラウンジを会場に、補助金(公的研究費)の年間平均配分額が3千万円以上ある研究者が研究活動を紹介する「国民との科学・技術対話」(科学・技術に対する国民の理解と支持を得るとともに、国民と共に科学・技術を発展させるための内閣府方針)のパネル展示が行われました。

この日は附属生命医学研究所・分子遺伝学部門木梨達雄教授の「免疫系細胞の移動と働きを調節する仕組みの研究」に関するパネル展示と、研究内容の紹介映像が上映され、附属生命医学研究所・分子遺伝学部門植田祥啓講師が参加者からの質問に答えました。また、本学の学術研究関連施設を紹介するパネルも同時展示。この日は医学部オープンキャンパスの開催日ということもあり、多くの高校生や保護者らが足を止めて研究展示や説明、本学研究施設の紹介映像に見入っていました。

第一回次世代医療システム産業化フォーラム2014で発表

産学協同で、新たな医療技術の開発と事業化に取り組んでいます



当日、プレゼンテーションを行う海堀准教授

5月29日(木)、大阪商工会議所において「第1回次世代医療システム産業化フォーラム2014」が開催されました。このフォーラムは2003年にスタートし、医療機器分野において大学等で研究された成果について実用化を進めるために、医療機器分野へ進出している中小企業と大学とのマッチングを促す事業です。現在までに総マッチング数は505案件、うち152案件が「共同研究・開発」など事業化を目指した段階に進展しており、さらに16案件が「事業化」に至っています。今回は、200社以上の民間企業が参加。本学からは外科学講座海堀昌樹准教授が「肝臓切除手術における先進的シミュレーションおよびナビゲーションシステムの開発」について発表しました。

なお、フォーラム開催後の7月28日(月)・30日(水)には海堀准教授の発表に関心を寄せた企業6社が、共同研究者である大阪電気通信大学総合情報学部の登尾啓史教授と共に面談し、うち3社と共同研究について検討を開始することとなりました。

キャンパスライフ

男子バドミントン・男子剣道で準優勝 —全医体ではソフトテニスダブルスで優勝—

7月31日(木)から8月19日(火)にかけて、第66回西日本医科学学生総合体育大会が石川県を中心とした各種競技会場において開催されました(一部冬季競技は本年春に実施済み)。本学の学生がバドミントン個人戦や剣道個人戦等で準優勝を飾るなど、日頃の練習の成果を発揮しました。

主な成績は以下の通りです。

■西医体

- ・バドミントン 個人戦 シングルス 準優勝
中山健太郎(6学年)
- ・剣道 個人戦 準優勝
安達賢太郎(5学年)
- ・陸上 女子 4×400m リレー 準優勝
宮田真友子(6学年)・藤原侑香(3学年)・小野未侑(5学年)・吉田知紘(6学年)
- ・陸上 女子 4×100m リレー 4位入賞
小野未侑(5学年)・宮田真友子(6学年)・藤原侑香(3学年)・吉田知紘(6学年)

- ・陸上 女子 800m 5位入賞
小野未侑(5学年)
- ・水泳 男子 400m自由形 4位入賞
杉田亮(5学年)
- ・水泳 女子 50m背泳ぎ 準優勝
早田菜保子(4学年)
- ・水泳 女子 100m背泳ぎ 準優勝
早田菜保子(4学年)

■全医体(8月19日～21日 主管校：島根大学)

- ・ソフトテニス 個人戦 ダブルス 優勝
服部雄基(6学年)・黒田一範(6学年)ペア

枚方学舎施設紹介 「オープンラウンジ」



枚方学舎1階には、交流スペースである「オープンラウンジ」が設けられています。



正面玄関入って右手、明るく開放的なガラス扉の向こうにあります。



国際交流センター：国際交流関係の情報提供を行っています。



連絡用掲示板：各学年ごとに通知や注意喚起を行う掲示板を設置しています。



インフォメーションモニター：連絡事項や太陽光発電システムの発電量が表示されます。



学生自治会室(左側) 和風の多目的室(右側)



イベントなどでも使用しています。(左から『Take! ABI 2013 in KANSAI』『国民との科学技術対話』)



「オープンラウンジ」をイベント等に使用されたい場合は右記までお問い合わせください。問い合わせ先 大学事務部学務課 内線(2222)

病 院

医療情報システム更新に向け、電子パスを考えよう

第7回合同クリニカルパス大会を開催



附属滝井病院の会場風景

9月18日(木)午後5時30分から、附属枚方病院、附属滝井病院、香里病院のクリニカルパス委員会主催で、第7回合同クリニカルパス大会が3会場をテレビ会議システムで結んで開催されました。講師として大阪医科大学総合企画部企画調査課副主幹の正木義朗氏を招聘し、「電子カルテ稼働初日に300の電子パスを用意してわかったこと」と題した講演が行われました。

附属枚方病院の宮崎浩彰委員長、附属滝井病院の關壽人委員長、香里病院の吉田良委員長による司会のもと、本学で導入を予定している医療情報システムを既に稼働させている大阪医科大学附属病院での電子パスについて、導入時から現在に至るまでの問題点と解決策、運用方法、さ

らには今後の課題などについて講師が話されました。

枚方病院40名、滝井病院28名、香里病院22名の参加者は、今後立ち向かわなければならない自分たちの問題として、熱心に聴き入っていました。

附属枚方病院

病院自体が被災したらどうする？ 災害医療研修会開催



病院の災害時対応について、外部講師を招き開催された講演会

7月25日(金)午後5時30分から、附属枚方病院13階講堂において、災害医療講演会が開催されました。この講演会は、災害拠点病院である附属枚方病院自体が被災することを想定し、業務継続について考えるため、大阪府医師会の大規模災害対策マニュアル刊行に携わり、災害医療に明るい、大阪市立大学医学部附属病院救命救急センター長の溝端康光教授を講師として招聘。「病院の災害時対応について」をテーマに、講演が行われました。

溝端教授は、過去の事例から病院内において想定される被災状況を紹介した上で、BCP(事業継続計画)策定に向け、現況と対応能力の把握や行動計画の策定が必要などと語りました。医師や看護師ら約130人が聴講し、災害発生時における課題について考えました。

医療安全講習会開催

9月2日(火)午後5時30分から、附属枚方病院13階講堂及び合同カンファレンスルームにおいて「医療安全・感染なんでもQ&A」をテーマに、医療安全管理部と感染制御部との合同講習会が開催され、医師や看護師ら415名が参加しました。

医療安全については、昨年9月に実施された近畿厚生局と枚方保健所による立入り検査における指摘事項の確認と、その後の改善内容についての講演が行われました。また、枚方病院で発生した医療事故5事例についての説明と当該部門での防止への取り組みや、今年度の主な活動について紹介が行われました。

感染制御については、感染対策マニュアルや全職員が周知すべき当院の感染対策指針の確認、標準予防策や感染経路別予防策など、感染対策の8大質問項目について、Q&A形式で講演が行われました。

両会場とも立見が出るほど超満員となり、職員の意識の高さが表れていました。

病 院

緩和ケアの基本的な知識・技術・態度を学ぼう 緩和ケア研修会開催



緩和ケアについて意見を出し合う参加者

8月30日(土)・31日(日)の2日間、附属枚方病院13階講堂において「第6回緩和ケア研修会」が開催され、医師や看護師ら35人ががん緩和ケアの基本的知識を習得しました。この研修会のがん診療連携拠点病院の指定用件の一つであり、日本緩和医療学会が推進する「PEACEプロジェクト」に基づく教育プログラムをワークショップ形式で進めました。

2日間の過密なスケジュールでの厳しい講習でしたが、講義や討議に加え患者、医師、観察役に分かれてのロールプレイが行われ、なごやかな雰囲気の中、参加者は熱心に受講していました。研修終了後には企画責任者である外科学講座柳本泰明講師から修了証書が手渡され、参加者は今後の緩和ケア実践に向け決意を新たにしました。

食物アレルギーに対する高い関心

附属枚方病院市民公開講座に市民約140人詰めかける
健康医療都市ひらかたコンソーシアム連携事業



参加者からの質問に答える谷内准教授

9月20日(土)午後2時から附属枚方病院13階講堂において、「食物アレルギーは治る！～最新の治療と予防・対策を学ぼう～」をテーマに、附属枚方病院看護部主催の市民公開講座(健康医療都市ひらかたコンソーシアム連携事業)が行われ、食物アレルギーに関心のある約140名の市民が詰めかけました。今回は、「食物アレルギーの症状と診断・治療について」と題して小児アレルギー科谷内昇一郎准教授が、「妊娠期における食物アレルギー予防に繋がる食生活」と題して看護部高野恵子管理師長が、「離乳食～幼児のバランスの良い食事について」と題して栄養管理部金谷節子管理栄養士がそれぞれ講演し、参加者は熱心にメモを取りながら聴き入っていました。

講演後の質疑応答では、食物アレルギーの治療を行っている子供を持つ参加者からたくさんの質問があり、その一つ一つに講演者は丁寧に答えていました。

広域医療搬送訓練に伴う模擬傷病者受け入れ



附属枚方病院に隣接する枚方防災ヘリポートへ着陸したヘリコプター

8月30日(土)、海上保安庁のヘリコプターによる関西国際空港から附属枚方病院に隣接する枚方防災ヘリポートまでの模擬傷病者搬送が行われました。これは内閣府主催の総合防災訓練に伴う平成26年度広域医療搬送訓練において、大阪府から附属枚方病院に対し、模擬傷病者の受入要請があったことによるものです。

ヘリコプターは午後3時50分頃、関西国際空港から模擬傷病者2名を乗せて飛び立ち、海上保安庁、大阪府、枚方消防署、及び病院関係者等が見守る中、午後4時25分頃枚方防災ヘリポートに着陸。2名の模擬傷病者は一度ストレッチャーに移された後、救急車で附属枚方病院の救命救急センターまで搬送されました。訓練参加者は一つひとつの手順をしっかりと確認しながらも機敏に行動し、災害に備える意識を深めました。

なお今回の広域医療搬送訓練には、枚方・滝井両病院合同で結成された関西医科大学DMATが、関西国際空港に設置された域外搬送拠点において、想定の被災地から運ばれた模擬傷病者を後方病院に搬送する訓練等に参加しました。

高度救急救命センターの診療実績などを評価

附属枚方病院が救急医療功労者表彰を受ける



表彰状を受け取る岡崎副病院長(右)

9月11日(木)、大阪府医師会館において平成26年度救急医療功労者表彰式が挙行され、附属枚方病院及び個人5名が大阪府知事から表彰を受けました。これは9月9日の“救急の日”にちなんで、救急医療に功績があった個人や団体に贈られるものです。

附属枚方病院は北河内地区の中核を担う高度救命救急センターとしての診療実績や、眼科、耳鼻科二次後送病院としての貢献、教育活動、医療技術の開発などが評価され、今回の表彰となりました。表彰式では附属枚方病院岡崎和一副病院長が表彰状を受け取り、来賓から温かい拍手が贈られました。

大阪市営地下鉄の駅で人命救助 附属枚方病院看護師2人へ感謝状



感謝状を手にする仁村さん(左)と馬場さん

地下鉄の駅で心肺停止となった男性に対し、蘇生活動を行い人命救助に貢献したとして、附属枚方病院9N病棟の仁村麻衣看護師と10S病棟の馬場春那看護師へ、大阪市交通局から感謝状が贈呈されました。

男性は7月19日(土)午後9時ごろ地下鉄淀屋橋駅にて倒れ、頭を強打し心肺停止状態に。偶然近くに居合わせた2人が、日頃の看護経験や研修成果を生かして胸骨圧迫を行い、AEDを使用して心室細動の有無を確認するなど、適切な心肺蘇生を行いました。男性は心拍を取り戻し、その後無事回復しました。感謝状贈呈式は9月9日(火)に地下鉄本町駅の運輸長室で行われ、同局鉄道事業本部運輸部の提橋次男梅田駅務運輸長から感謝状が手渡されました。

表彰を受けた2人は、「急変時対応研修や、普段から病棟で学んでいる経験が役に立ち、落ち着いて行動することができた。男性が無事回復し本当によかった」と語りました。

憩いのひとときをプレゼント 附属枚方病院サマーコンサート開催



患者の皆さんで超満員となったホール

7月19日(土)午後2時30分から、附属枚方病院2階ホールにおいて、関西医科大学混声合唱団「コールクライス」によるサマーコンサートを開催しました。オープニングに本学の学歌「のぞみ」が披露されたのち、療養中の患者や家族の皆さんに病気に立ち向かう勇気や、明日への希望を与えられるようにと選曲された「上を向いて歩こう」など数曲が演奏されました。

入院患者さんやその家族を中心とした多くの人で埋め尽くされた会場では、患者の皆さんも歌に加わる場面も設けられ、プログラムに載せられた歌詞を見ながら歌に加わり、コールクライスの歌声だけでなく、患者さんの歌声も交わっての楽しいひと時を味わっていました。

血管の元気度を知り、動脈硬化を防ごう！ Take! ABI 2014 in KANSAI



手足の血圧を同時に計測可能なABI測定を受ける参加者



市民公開講座では、実演を交えながら動脈硬化について学びました

9月28日(日)午前10時から、附属滝井病院本館6階講堂において「Take! ABI 2014 in KANSAI～簡単な手足の血圧測定でわかる!!脳卒中や心筋梗塞の危険度～」(実行委員長・外科学講座駒井宏好診療教授)が開催されました。このイベントは、手足の血圧を測定することで血管年齢を判定(ABI測定)し、閉塞性動脈硬化症などの予防に役立てるために行われました。参加者は10分程度で完了するABI測定の結果をもとに医師との面談に臨み、真剣な表情で医師の言葉に頷いていました。

また、この日は午前12時から附属滝井病院南館2階臨床講堂において、駒井診療教授司会のもと市民公開講座『運動は三文の徳? 今日からできるエクササイズ!』が併催され、約40名の聴衆が参加。今回は糖尿病の運動療法などで国内外の学会における学術発表もこなす附属滝井病院健康科学センター久保田真由美運動指導士がスピーカーを務め、動脈硬化が引き起こす疾患やその予防に有効な有酸素運動について講演しました。会場は終始和やかな空気に包まれ、久保田運動指導士の話の時折笑い声がこぼれながら盛況のうちに終了しました。

※ABI…Ankle Brachial Index 足関節/上腕血圧比

歯科・口腔外科外来を附属滝井病院に開設しました

附属滝井病院では、10月3日(金)から「歯科・口腔外科」外来を開設しました。当科は、がんなどで全身麻酔が必要な手術を受けたり、放射線治療や化学療法を受けたりした入院患者に、最適な口腔機能管理を提供することを目的としています。診察日時は週2日(火・金曜日午前中)で、口腔ケア診療予約は入院(手術)決定時に案内します。なお、徒歩または車椅子で外来診察室(耳鼻咽喉科外来)まで移動可能な入院患者が対象となっており、一般患者の歯科診療は行いません。

病 院

附属滝井病院

スムーズな移行を目指して— 附属滝井病院電子カルテ移行リハーサル実施



新たな電子カルテ入力画面に向かう医師

10月4日(土)・18日(土)午後2時から、附属滝井病院において11月3日(月・祝)午前8時から稼働予定の医療情報システムの操作性を実際に確認するため、延べ教職員518名が参加して運用リハーサルが実施されました。当日は、大学情報センター仲野俊成准教授が概要を説明し、リハーサルがスタート。外来受付から診察、検査オーダー、入院手続き・精算など、患者役の職員が実際に院内各所を回り、医師・職員がその対応をすることで新システムの作動状況を確認していきました。

なお、今回のリハーサルでは外来診療・中央診療・病棟の3部門を対象に、各種検査などのオーダリングシステムから手術・内視鏡・病理・輸血の各サブシステムや、医事会計・調剤まで、それぞれ百数十のパターンを用意して実施。11月3日(月・祝)の本番稼働に向けて問題点を発見すべく、真剣な表情で取り組んでいました。

“本”を通したところの交流 第1回健康まちライブラリー開催



看護師に本を紹介する磯井氏

7月18日(金)午後5時30分から、附属滝井病院南館2階臨床講堂において附属滝井病院透析センターと一般社団法人まちライブラリーの共催で、病院内外の人々と本を通したコミュニケーションを図りお互いの理解を深める「第1回健康まちライブラリー」が開催されました。この日は院外から10名、院内から25名が参加。まず、昨年附属滝井病院に併設されたまちライブラリーの提唱者であり、一般財団法人森記念財団普及啓発部長で大阪府立大学観光産業戦略研究所客員研究員の磯井純充氏からライブラリーの紹介がありました。また、参加者各自が持ち寄った本を用いて自己紹介を実施。その後、附属滝井病院循環器内科大谷肇准教授が書籍『長生きしたければミトコンドリアの声を聞け』(風詠社刊)の内容を中心に、長生きの秘訣から少子高齢社会のあり方まで、ミトコンドリアからのメッセージを踏まえて特別講演を行いました。

附属滝井病院では、今後も定期的に「健康まちライブラリー」を開催していく予定です。

滝井病院管理栄養士監修メニューが登場 ホテルグランヴィア大阪に



「日本料理 浮橋」が入居する、ホテルグランヴィア大阪

3月26日(水)から、JR大阪駅直結のホテルグランヴィア大阪19階に出店している「日本料理 浮橋」において、附属滝井病院栄養管理部所属の管理栄養士とコラボレーションした季節限定特別メニューが提供されています。普段の業務の中で培われた栄養管理ノウハウを存分に発揮し、塩分とカロリーを抑えた美味しいヘルシーメニューを開発しました。健康維持・増進のため普段の食事に気をつけている人、塩分やカロリーの取りすぎが気になる人は、ぜひ一度ご賞味ください。また、メニューの詳細はホテルグランヴィア大阪のホームページからも確認できます。

病 院

香里病院

患者に憩いのひとときを—

七夕コンサート開催



オープニングで「あまちゃん」のテーマソングを演奏する演者

7月5日(土)午後2時30分から香里病院2階エントランスホールにおいて、大阪聖母女学院中学校・高等学校の教員6名による『七夕コンサート』を開催しました。キーボードやクラリネットのほか、鍵盤ハーモニカやリコーダーなど身近な楽器も取り入れながら、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」のテーマソングや人気アニメソングなどが演奏され、子どもからお年寄りまで楽しめるものとなりました。

その他にもクイズやマジックで場を盛り上げるなど患者を中心とした多くの人が聞き入り、日ごろ味わえない憩いのひと時を楽しみました。

2階エントランスホールに移動式図書(かほり文庫)を設置しました



2階エントランスホールに設置されたかほり文庫

7月8日(火)から、香里病院2階エントランスホールに移動式図書「かほり文庫」を設置しました。これは外来診察の待ち時間を少しでも過ごしやすくするために設置したものです。本のジャンルは文庫や絵本に限らず、料理本から漫画、雑誌まで幅広く取り揃えており、外来患者だけでなく入院患者にも利用されています。

また、今後は2階B受付前にも設置する予定です。



香里病院のキャラクター「KORIちゃん」

附属看護専門学校

附属看護専門学校 オープンキャンパス開催

牧野校舎の門をくぐるオープンキャンパス来場者



7月25日(金)・29日(火)・8月5日(火)、附属看護専門学校のオープンキャンパスが開催され、高校生や社会人、保護者など347名が参加しました。

午前中は牧野校舎で概要説明や学生・教職員による相談会、実習室で学生の実習風景の見学などが行われ、午後からは希望者(3日間で122名)が枚方学舎と附属枚方病院を見学しました。

天候にも恵まれ、参加者は教職員や学生と触れ合う中で看護教育を身近に感じ、自らの進路について思い描いているようでした。



第1教室では概要説明などが行われました



第2教室には相談コーナーが設けられました



こちらは枚方学舎・シミュレーションセンター見学の様子



実習室での学生の実習の様子に参加者も興味津々のようで、多くの質問がありました



附属枚方病院で、先輩看護師の活躍も見学しました

牧野校舎で初開催 附属看護専門学校祭



生徒の模擬店を回る、岡崎和一附属看護専門学校長(内科学第三講座教授)

9月20日(土)午前9時から、牧野校舎において『第35回関西医科大学附属看護専門学校祭』が開催されました。昨年8月牧野校舎へ移転してから初の学校祭ということで、「牧野の地で踏み出そう新たな一歩つなごう関医魂」をテーマに掲げ、各学年が垣根を越えて一致団結。焼きうどんやフランクフルト、唐揚げから、スーパーボールすくい、フリーマーケットまで、思い思いの模擬店を開いていました。また、体育館では有志がバンド演奏やダンスパフォーマンスを披露。店番の合間を縫って多くの生徒が集まり、教職員とともに手を取り合って盛り上がるシーンも見られました。

最後は岡崎和一附属看護専門学校長(内科学第三講座教授)の挨拶と閉会式で締めくくり、生徒も「(普段の実習や授業の)疲れが吹き飛び、気持ちを新たにリフレッシュできた」と語るなど、良い一日となったようでした。

※今年度は一般非公開、午前中のみ開催

卒後臨床研修センター

レジナビフェア2014 in 大阪(初期研修説明会)に参加しました



本学ブースで、説明に耳を傾ける来場者

7月6日(日)、インテックス大阪1・2号館において医学部生・研修医1,625名、約400の臨床研修施設が参加して「レジナビフェア2014 in 大阪」が開催され、本学も説明ブースを開設しました。当日は総合診療に関する講演や研修マッチングで役立つ面接・マナー講座、オススの医療施設を紹介するコンシェルジュ・コーナーなど医学部生・研修医のためのコンテンツが設けられる中、129名が本学ブースを来訪。真剣な表情で説明に耳を傾けていました。卒後臨床研修センターは、今後もフルマッチングを目指して各種広報活動を展開していく予定です。

専門研修支援プログラムの登録医を募集しています

本学では、初期臨床研修修了者が各専門領域における高度な診療能力と学術水準を習得するために、専門研修支援プログラムを構築しています。この制度は、本学の定める専門研修のプログラム等に則って研修を行うことを希望する者が登録医として申込みを行い、専門研修への移行を円滑に行えるようサポートするものです。現在、以下の要領で平成27年度専門研修支援プログラム登録医を募集しており、数多くの登録申込みを募っています。但し、基本的に申込み期限を過ぎた場合は受付ができませんので、期限内の応募をお願いします。なお、期限までに入局希望の診療科が決まらない場合は、必ず卒後臨床研修センターまで事前に相談してください。

■応募資格

平成26年3月までに初期臨床研修を修了した方、または平成27年3月末に初期臨床研修を修了予定の方。

■募集科

血液呼吸器膠原病感染症内科、循環器腎内分泌代謝内科、消化器肝臓内科、心療内科など多数(※詳しくは下記URLでご確認ください)

<http://www.kmu.ac.jp/residency/recruit/koukiyoukou.html>

■選考方法・日時

方法：各診療科で書類審査、面接試験等により実施。

日時：平成26年12月15日(月)～20日(土)

発表日：平成27年1月5日(月)

※応募者へ郵送にて通知します。

■応募手続き

出願期日：平成26年6月2日(月)～12月12日(金)17時
(郵送の場合、当日消印有効)

出願書類：

1. 専門研修支援プログラム登録医申込書(所定)
2. 履歴書(所定)
写真(横3.0cm×縦4.0cm)1枚(貼付)
※写真の裏には必ず氏名を明記してください。
3. 医師免許証の写(本学研修医不要)
4. 臨床研修修了証明書又は修了見込み証明書(本学研修医不要)
※応募用紙は下記URLよりダウンロードしてください
<http://www.kmu.ac.jp/residency/recruit/koukiyoukou.html>

■問い合わせ先

〒573-1191

大阪府枚方市新町2-3-1

関西医科大学附属枚方病院 卒後臨床研修センター

Tel：072-804-2847(直通)(内線：3800、3801)

Fax：072-804-2952

E-mail：sotugori@hirakata.kmu.ac.jp

Home Coming Day 2015 開催決定！

2015年(平成27年)7月11日(土)午後5時から82期生(平成25年度卒業)を対象に、ホームカミングデー2015を開催します。

この機会に是非母校を訪れてみてはいかがでしょうか。



カヌー一部創立50周年

南 克昌 (38回生)



50年前、東京オリンピックが開催された年(1964年)、全日本カヌー選手権優勝者でもある体育学の岡本勉先生(名誉教授)が我々新入学生に呼びかけカヌー一部が創られました。関西医大には京都大学の高木三郎先生が体育理論の講義に来ておりました。この高木先生が京大ボート部で、ベルリンオリンピック(1936年)から折り畳み式布張りファルトボートを日本に持ち帰り、1938年に日本カヌー協会が設立されました。カヌーがオリンピックに正式種目として採用されたのは、ベルリン大会で、日本が初参加したのは、東京大会でした。関西医大カヌー一部は静水カヌーで、カヤックより始め、3年後よりカナディアンカヌーが導入されました。水上練習は、最初は招提の池(枚方市)でしたが、数年後より滝井対岸の豊里、淀川で行われております。しかし学舎が移転した今、練習時間確保のため、枚方地区への移転が熱望されております。新入学生が100名ほどなので、部員は毎年数人ですが、ほぼ切れることなく、今では142名のOB・OGがおります。練習・合宿・コンパなどで、体育会系の同じ釜の飯を食った先輩・同輩・後輩の絆には深いものがあります。ただ、50年の歴史の中で、痛恨の極みともいえるべき事件がありました、創部14年、1978年5月、豊里大橋付近で、2回生男子部員が遭難・死亡しました。今も、毎年練習初めには、部員一同で黙祷献花し、二度と不幸な事故の無いよう、絶対安全を誓っております。

平成26年6月15日(日)、午前は附属枚方病院近辺の淀川でカヌー一部創立50周年記念レースを行い、午後には「ひらかた仙亭」で50周年記念式典・祝賀会を行いました。当日は岡本勉先生ご夫妻、OB・OG会会長45回生友田幸一副学長(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授)ほか、60名にのぼる先輩達、それに7名の学生部員などが加わり、盛大に開催されました。今も全国で唯一の医学部系カヌー一部ということで、試合は一般大学の中で揉まれている中、本学には試合中の医療サポートがいつも期待されております。また、44回生の原田直己先生は大阪カヌー協会会長・日本カヌー連盟理事、クラブ顧問46回生四方伸明臨床検査医学講座准教授は同じ50年の歴史を持つ関西学生カヌー連盟会長などと、歴史あるクラブとして、多くの先輩がカヌー界の重鎮として、名を連ねております。(http://2style.net/kmucanoe/)

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(主に平成26年7月1日～9月30日 ※判明分のみ)

脳神経外科学講座 浅井 昭雄 教授	朝日新聞 (7月29日朝刊)	生活面「どうしました」欄に、頭部に髄膜腫が見つかり不安であるという読者の投稿に対する、疾患の概要や治療法についての解説が掲載されました。
小児科学講座 石崎 優子 准教授	朝日新聞 (8月1日東京本社版朝刊)	先天的な疾患の治療で成人向け診療科へ移行できない患者が増加している問題を取り上げた記事に、「(診療科を移行できない成人患者は)達成感を得られないまま大人になり、仕事につかずにひきこもる例もある」とのコメントが掲載されました。
外科学講座 吉岡 和彦 理事長特命教授	大阪日日新聞 (8月20日)	今年4月から保険適用となった便失禁(意思とは無関係に便が漏れてしまう疾患)の治療法「仙骨神経刺激療法(SNM)」が紹介され、保険適用後初めて実施した医師としてのコメントが掲載されました。
内科学第二講座 河野 啓子 診療講師	毎日新聞 (8月29日朝刊)	小規模な民間図書館『まちライブラリー』の広がりを報じる記事に附属滝井病院透析センターの取り組みと、「本を通じて患者さんの内面が垣間見られることが、よりよい治療につながる」とのコメントが掲載されました。
耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 朝子 幹也 准教授	毎日新聞 (9月2日朝刊)	「鼻の日セミナー」(8月3日開催、毎日新聞オーバルホール)の様子を紹介する記事に、従来の治療法が効きにくい新型副鼻腔炎の特徴や最新の花粉症治療法に関する講演の内容が掲載されました。
公衆衛生学講座 西山 利正 教授	講談社「FRIDAY」 (9月5日号)	デング熱の症状や対処法についてコメントが掲載されました。
外科学講座 吉岡 和彦 理事長特命教授	日本経済新聞 (9月5日夕刊)	便失禁の症状や治療法が紹介され、患者負担の少ない治療法として注目されている「仙骨神経刺激療法」についてコメントが掲載されました。
公衆衛生学講座 西山 利正 教授	毎日新聞 (9月6日東京本社版朝刊)	デング熱に感染した場合に市販の解熱剤を服用した場合の注意点や、感染症科のある専門病院への受診を促すコメントが掲載されました。
公衆衛生学講座 西山 利正 教授	夕刊フジ (9月6日)	デング熱の初期症状や重症化した場合の症状、自己判断で薬を服用することの危険性についてのコメントが掲載されました。
公衆衛生学講座 西山 利正 教授	講談社「FRIDAY」 (9月12日号)	感染が拡大しているデング熱について、ウイルスを媒介する蚊が沖縄で越冬してさらに感染が拡大する危険性や、免疫力の低い人、過去に感染歴のある人がショック症状を起こすという学説などについてコメントが掲載されました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	日本経済新聞 (9月12日夕刊)	目の動脈硬化によって発症する「網膜静脈閉塞症」の患者の年齢層や症状についてコメントが掲載されました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	産経新聞 (9月17日夕刊)	iPS細胞を用いた「加齢黄斑変性」の治療において、補助器具で訓練を行う「ロービジョンケア」の重要性に関するコメントが掲載されました。
健康科学教室 木村 稔 教授	産経新聞 (9月18日朝刊)	連載中のシリーズ記事「病に挑む 第5部 肥満症下」において、本学附属病院での肥満外来の取り組みと実績などについて活動が取り上げられました。
附属枚方病院救急医学科 尾上 敦規 任期付助教(専修医) 村津 有紗 任期付助教(専修医)	ABC朝日放送 「キャスト」 (9月19日)	4月に附属枚方病院救急医学科へ入局した二人が高度救命救急センターのスタッフとして加わり、新人救命医として奮闘する姿が紹介されました。
外科学講座 駒井 宏好 診療教授	毎日新聞 (9月29日朝刊)	附属滝井病院で開催された「TAKE! ABI 2014 in KANSAI」と「市民公開講座」の様子を伝える記事で、コメントが掲載されました。

*このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

お知らせ

第29回日本医学会総会 2015 関西 事前登録はお早めに

明治23年(1890年)に初めて開催され、第12回大会(昭和22年)には“我が国の内外に対する日本医学界の代表機関”と決議された「日本医学会」は、来年春に「第29回日本医学会総会 2015 関西」の開催を予定しています。「医学と医療の革新を目指して—健康社会を共に生きるきずなの構築—」をメインテーマとしてオール関西で開催することになりました。教職員並びに同窓生、大学院生・学部生の積極的な参加をお願いします。

なお、事前参加登録がWebで可能ですので、詳しくは「日本医学会総会」の公式ホームページをご覧ください。

日本医学会総会：<http://isoukai2015.jp/>

事前登録申込み：<http://isoukai2015.jp/registration/index.html>

■開催概要

〔第29回日本医学会総会 2015 関西〕

・学術講演	平成27年4月11日(土)～4月13日(月)	国立京都国際会館 ほか
・学術展示	平成27年4月10日(金)～4月13日(月)	京都市勧業館「みやこめっせ」 ほか
・一般公開展示	平成27年3月28日(土)～4月5日(日)	神戸国際展示場 ほか
・医学史展	平成27年2月11日(水・祝)～4月12日(日)	京都大学総合博物館
・医総会WEEK	平成27年4月4日(土)～4月12日(日)	京都劇場、メルパルク京都 ほか

図書館本館の休日開館について



平日の自習スペースの様子

枚方学舎の図書館本館では、9月から休日開館を開始しました。IC対応のIDカード(学生証・職員証)所持者が対象で、日曜・祝日、第2・4土曜日(大学休業日)、及び年末年始に、館内の閲覧席を自習席として利用できるようになりました。また、毎回平均110人(※9月度実績、平日は平均450名、数字はいずれも延べ人数)程度の利用者と、休日開館の際はゆったりとリラックスした雰囲気の中、各自のペースで学修することが可能です。ぜひご利用ください。

なお、開館日・時間については開館日カレンダーで確認できます。

編集後記

ある日の夕方、ふと空を見上げてみると月が何だか変。一部が暗く陰り、色も少し赤っぽい。これは驚天動地の天変地異か、はたまた何かの瑞兆か…。というのは考えすぎで、10月8日に発生した皆既月食での一コマです。満月は一度赤銅色に暗く沈み、その後再び輝きを取り戻していました。

ところで、古代の人々はこの皆既月食を“死と再生”の象徴として捉えていたそうです。そう考えれば、自分が何らかの輝きを失ったとしてもいつかまた再び輝けるような気がして、勇気付けられませんか？皆既月食を見上げながら、三十路に足を踏み入れて“若さ”という輝きを失いつつある自分も、もう一度輝けような気がして前向きな気持ちになれました。

ちなみに皆既月食は来年4月4日にも観測できるそうです。今度はどんな想いでこの天体ショーを見上げることになるのか、楽しみに待ちたいと思います。(一)

関西医科大学広報は、本学HPでも閲覧できます

この広報誌は創刊号から最新号まで、本学HPでも公開しています。過去の記事を読みたい場合は、本学HPトップページから右下のリンク「関西医科大学広報」をクリックしてください。

ご意見・ご感想をお待ちしています

「関西医科大学広報」についてのご意見・ご感想は、下記奥付に記載してある連絡先に郵送するか、メールアドレス、電話番号までお願いします。皆様のご意見をお待ちしています。

関西医科大学広報 Vol.27

発行 学校法人 関西医科大学
編集 法人事務局総務部広報課
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
TEL 072-804-0101 (代表)
FAX 072-804-2547

<http://www.kmu.ac.jp/>
E-mail kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp
平成26年11月7日(金)発行